

2025年度 看護学科 学校推薦型選抜Ⅱ期

入学試験過去問題 (解答例)

小論文

問1

渋沢栄一は17歳の時に武士になりたいと志を立て、政治家として国政に参加してみたいという大望をいだいた。しかし、その志は青年期においてしばしばゆれ動き、最後に実業界で身を立てようと志したのが、明治4、5年の頃のことであった。その後、40年あまり一貫して変わらず、真の「立志」はこの時であった。

(145字)

問2

志を立てる時は慎重に考えをめぐらす必要がある。まず自分の長所や短所を明らかにして、その最も得意とする方向に志を定めるのが良い。そして、これなら一生を貫いてやることができるという確かな見込みが立ったところで、初めてその方針を確定する。そうしたしっかりした考えがないまま動き出すと、17歳の時の渋沢栄一のように、自分の才能に不相応な、身のほど知らない志になり、挫折と変更を余儀なくされる。そのために必要なのが、「素質」と「修養」である。「素質」は生まれつきの能力、「修養」はより高い人格形成に努めることである。そして、その根幹をなすのが「学問」である。「学問」は「立志」の前提条件であり不可欠なものと私は考える。

(300字)